

日中活動支援事業(生活介護)

社会福祉法人 訪問の家

〒241-0835 神奈川県横浜市旭区柏町 59-2

助成事業の概要

(1) 「障害のある方の意思決定支援に繋がる意思表出の場作り」

(2) 「意思決定支援を実践する福祉施設職員の育成の場作り」の2点を目標に2023年5月・8月・11月、2024年2月の計4回、文化活動家であるアサダワタル氏をファシリテーター（講師）に招き開催しました。当施設に通われている障害のある方々（利用者）を対象に「施設内で放送される架空のラジオ番組を作る」をメインテーマにした取り組みを行ないました。

プロデューサー役となる職員が各支援現場から出てくる企画や参加候補者案を元に「番組表」を作成します。その後ファシリテーターのアサダ氏と打合せし、アドバイスを頂いた後、施設現場内での準備に取り掛かります。

当日は施設内にラジオブースを構え、映像や音、触れ合いを用いながら各自が思い思いの表現をして、周囲はそれを見て感じて楽しめます。

各回、事前準備してきた内容を利用者それぞれが存分に表現できる機会となりました。

事業の成果

予定通り年間4回開催しました。

出演希望の利用者さんのやりたい事や得意な事を中心に、事前に作成した「番組表」を元にして各現場の担当職員（約40名の利用者が5つの部署に分かれて活動しています）が対象となる利用者と一緒に番組の準備をしました。

出演する利用者は言葉を用いてコミュニケーションを取る方や、明確に意思が表明できる方やそうでない方など様々な方法で表現をされるため、その人に応じたツールを活用した準備や雰囲気作り、事前のお知らせや内容を一緒に考えるなどの作業を行ないました。

特に成果として顕著だったのが、「目立ちたい気持ちが強くなってしまい、場の空気や流れをぶち壊してしまう」タイプの利用者の番組出演の方法に関する取り組みです。

この方は自身の要求が認められないと「大声を出す」「物を投げる」などのネガティブな表出行動を取ってしまう傾向の強い方でした。

ネガティブな表出行動を目の当りにした際、支援者は「そのネガティブな行動自体をどうにかしようとする」と目の前の表出行動に囚われてしまいその主訴を見失う傾向が多くあります。

ですが今回のらじおワークショップでは、その方が「どうしたら気持ちよく参加できるか」「その人の得意な事な何か」という視点に立ち返り、ネガティブな行動を取らなくて済むような参加方法を検討しました。

その結果、本人には「他者に認められたい」「具体的役割があると力を発揮できる」というストレングスがある事を振り返る事が出来、「らじおの当番」という役割を設ける事となりました。具体的にはワークショップ進行の補助的な役割や、役割を担った後に好きな歌を1曲唄う時間を設けるという事を明示しました。

年間4回の開催を経て、現在はその役割を全うする事に意欲を燃やし、前向きな気持ちで毎回

参加が出来るようになりました。

このように目の前で起きる問題に着目するより、「その人が出来る事は何か?」「その人が得意な事は何か?」というストレングスモデルやエンパワメントの考え方が重要である事に気が付かされました。そして障害のある方の支援者として大事に持つべき点に立ち返る事ができ、他の方の番組作りにおいてもその視点を大事にした企画が練られ番組として成立する事となり大きな成果を得る事ができました。

成果の広報・公表

毎回のワークショップの内容や成果を、利用者の家族向けの連絡会にて報告しました。

大きな成果が上がっている為、出演された利用者家族は大変喜んでおられ、興味関心を示してくださる家族も複数いらっしゃいました。

また事業所の広報誌にてワークショップの成果をレポートし関係機関や地域住民向けに報告しました。

加えて 11 月に開催した分のワークショップのレポートとして、写真を交えた 1 枚の冊子にまとめ、事業所内での振り返りや、今後の周知活動や成果報告等に活用していく予定です。

今後の展開

次年度以降も継続してワークショップの開催をし、事業所職員においては「意思決定支援に携わる職員としての研修」を意識した番組作りを行ない、番組作成のプロセスを楽しみつつ支援者として大事な視点に立ち返る作業としたいと考えています。

大きな成果の得られている事業でもある為、今後は事業所内に留まらず、周辺地域向けにも発信をしたいと考えています。

具体的には「近隣駅前の施設にて開催している事業所の作品展とのコラボレーション」がその一つです。

作品展では利用者の作品展示を行なっているものの作者と地域住民が会う機会が多く作れていないという課題がありました。

そこでこのラジオ番組のワークショップと作品展を連動させ、作品の紹介もしつつ作者と地域住民が会う事の出来る場として機能させ、障害のある方の生活や人となりに触れ、地域への障害啓発の出来る機会として行きたいと考えています。